

1 これまでの経過

平成25年に管内19市町村が策定した本構想は、令和4年度末で計画期間が終了する予定であったが、バイオマスの取り組みを促進するため、国から計画期間の延長の方針が示された。

今後も地域においてバイオガスプラントの整備等が計画され、国の支援制度の活用が見込まれることから、計画期間を延長し、以下のとおり内容を改訂するもの。

2 主な改訂内容

(1) 地域の概要

人口などの各種数値データを更新。

(2) 地域のバイオマス利用の現状と課題

十勝のバイオマス賦存量及び現在の利用状況を、本年5月に国へ報告した期中評価時の実績値で更新。

(3) 目指すべき将来像と目標

① 期中評価の結果を踏まえ、種類別に賦存量などを推計し、新たな利用率を設定。

バイオマス	2022年度末時点の利用率(%)	新たな目標(2033年度末)		
		賦存量(t/年)	利用量(t/年)	利用率(%)
木質系	63.5	204,833	137,443	67.1
農業残さ	51.2	733,447	437,877	59.7
家畜排せつ物	96.7	6,772,744	6,637,289	98.0
食品廃棄物	58.6	23,754	14,537	61.2
汚泥類	92.1	13,187	12,338	93.6
紙類	94.4	9,074	8,611	94.9
植物系廃油	16.8	2,192	438	20.0
合計	92.0	7,759,231	7,248,533	93.4

② 期中評価の結果を踏まえ、種類別に利用量を推計し、発電における新たなエネルギー自給率を設定。

種類	2022年度末集計		新たな目標(2033年度末)	
	利用量(Mwh)	自給率(%)	利用量(Mwh)	自給率(%)
太陽光	277,928	84.7%	471,366	96.6%
水力	1,497,127		1,563,001	
バイオマス	86,687		90,761	
合計	1,861,742		2,125,128	

③ バイオマスの利用量(t/年)の見直しに伴い、CO2の排出削減量を設定。

CO2の排出削減量	2022年度集計	新たな目標値(2033年度末)
	31,717千t	33,222千t

(4) 地域波及効果

今後の設備投資などによる生産誘発額を変更し、地域内経済効果を修正。

3 今後のスケジュール

(1) 今年度中に、本改訂案を国に提出。